

平成30年度 府立乙訓高等学校学校経営計画（評価）

学校経営方針（中期経営目標）	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点目標
<p>1. 知・徳・体の調和のある人間の育成に努め、高いレベルでの「文武両道」をめざす。</p> <p>2. 本府「教育振興プラン」を踏まえ、学習指導要領に即して創意・工夫のある教育課程を編成し、日々の教育活動の充実に努め、進路希望の実現と、心豊かにたくましく生きる人間の育成に努める。</p>	<p>1 第90回記念選抜高等学校野球大会初出場は、学校と地域、そして卒業生や保護者が一つになって目標に向かって団結する貴重な経験となった。この経験を生かし、今後も落ち着いて学習、部活動、学校行事に励める環境づくりに努め「生徒・保護者・地域に信頼され、愛される学校」づくりをより一層推進する。</p> <p>2 「自学自習の気風醸成」、「高い目的意識とその継続（粘り強い学習）」を推進し、これまでの進路結果を分析した上で、適切な進路指導を組織的・計画的に行い、生徒一人一人が目標とする進路の実現を図る。</p> <p>3 本校生の学力実態や進路希望状況に即した授業の在り方を各教科で検討し、「学力の伸張が実感できる」授業をさらに充実させ、より高い目標に向かう意欲を高める。 ICTの効果的な活用方法についても研究・研修を進め、よりよい教育活動の推進に向けた工夫改善をおこなう。</p> <p>4 学校ホームページやPTA お知らせメールなども活用し、日々の教育活動の即時発信に努め、地域に開かれた学校づくりをより一層推進する。</p>	<p>■ 特色化に向けた学校改革の推進</p> <p>1 スポーツ健康科学科の学習内容と事業等について、これまでの取組の成果を検証し、より専門的な洗練された内容となるよう、その体系化を進める。</p> <p>2 文系コース、理系コースにおける効果的な学習を展開するとともに、将来の進路を見据えた学習内容・行事等を計画・実践する。また、プロジェクト会議を活用し、今後の魅力ある普通科の在り方について、検討を進める。</p> <p>3 高い希望進路実現に向けた学力向上とその定着を図る。 (1) 高大連携・高大接続を効果的に活用した進路指導を行う。 (2) 土曜活用事業等の充実を図るとともに、学習室(自習室)の有効活用を推進し、学習習慣の定着を図る。 (3) 府高模試をはじめとした各種模試等の結果分析を行い、生徒個々はもとより、クラス等の学習集団の学力傾向を把握し、生徒が現在有する学力を一層伸長させるための指導方策を講ずる。 (4) ICTを活用した授業をさらに発展させ、「生徒に学力をつける授業」を構築するとともに、「生徒自らが活用する学習」の充実を図る。 (5) 定期考査前に成績不振生徒に対する「基礎学力対策講座」を設け、評定「1」の生徒を減少させる取組を継続する。</p> <p>4 家庭との緊密な連携を図るとともに、校内連携体制の充実に努め、「生徒・保護者・地域から信頼される学校」づくりを一層推進する。 (1) 基本的な生活習慣を確立するための指導を推進する。 (2) 規範意識の高揚に係る生徒指導を推進する。 (3) 運動部活動のみならず、幅広く文化系部活動の充実を図り、学校の活性化を推進する。 (4) ボランティアへの参画等、地域社会にも貢献できる生徒会活動を推進する。 (5) 「おとくにクラブ」の活動を通じて、地域との連携を推進する。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	分掌	評価	成果と課題
1 組織運営	組織的な校務運営の推進	<p>(1) 授業研究週間、研修会、教科主任会議、教務部からの情報発信等を通して授業や評価の方法の改善を進める。</p> <p>(2) 校内ネットワークの活用により教務部からの情報発信の方法を工夫し、各分掌・教科からの伝達内容や生徒の欠席状況等の情報の共有化を進める。</p> <p>(3) 校務システムの円滑な運用を推進し、成績、出欠管理、指導要録、調査書等、職員が能率よく業務を遂行できる環境を整備する。さらに、校務システムのより幅広い活用の方法について研究する。</p> <p>(4) 時間割編成及び管理、定期考査運営、生徒在籍管理、科目登録・講座編成、教科書届出、指導要録管理、学習指導資料の作成などの業務を円滑に遂行する。</p>	教務	B	<p>(1) 6月と11月に授業研究週間を実施し、授業改善のための研修を行った。全体研修会は、新学習指導要領説明会出席者による報告会とし、他教科も含めた情報の共有化を図った。</p> <p>(2) 校務システムの運用をスムーズに行うことができ、成績処理等の業務の効率化に寄与した。基本操作の研修会へはほとんどの若手教員が参加済みである。</p> <p>(3) 校内website「教務の窓」を運営することにより、情報共有の利便性を図った。</p> <p>(4) 具体的方策(4)に示した各業務について、学習環境充実と学力向上の観点から丁寧かつ円滑に遂行することができた。</p>
	生徒募集対策	<p>(1) 本校が目指す学校像や魅力を学校説明会、中学校訪問、教育機関訪問等を通じて正しく伝えて理解を図り、乙訓で鍛える、乙訓で創るというスローガンを宣伝し、乙訓高校に行って未来を変えようとする生徒を京都全域から募集・確保する。</p> <p>(2) 理系コース並びに文Aコースの設置目標を確認しながらその魅力を打ち出し、常に学習意識を持った生徒を確保する。</p> <p>(3) スポーツ健康科学科は、これまでの卒業生の成果をこまめな中学校訪問や学校説明会で伝え、学科の目的に沿うとともに乙訓高校の中核を担える生徒の確保に努める。</p> <p>(4) 男女比の均等化も意識しながら、体育系部活動だけでなく文化系部活動や図書館の魅力についても十分伝える。</p> <p>(5) 全教職員が一致したイメージを持って生徒募集に当たれるように努める。</p>	総務企画	B	<p>学校説明会の参加者は全体的に増加。今年度は若手の先生にも協力してもらいながら塾訪問を実施した。</p> <p>昨年度につづき、理系コースや文化系部活動の魅力の打ち出しにも努めた。</p> <p>スポ健についてはこれまでやってきたことを地道に続けていく。</p> <p>1学期に教務部長によるプレゼンをみんなで聞くことにより、その後の学校説明会などに生かすことができた。</p>

2 学習指導	基礎学力対策、進路実現	<p>(1) 次期学習指導要領や新テストを視野に入れて、平成 31 年度入学生教育課程を編成し、魅力的かつ信頼される学校を創る。</p> <p>(2) 成績不振生徒対象に定期考査前に「放課後学習講座」を効果的に実施し、成績不振者を減少させ、中途退学者、原級留置者の根絶を目指す。</p> <p>(3) 「シラバス」を学科別に編集・作成し、全生徒に配布し、学習指導及び生徒の計画的な学習に資する。</p> <p>(4) 全生徒を対象に生活実態調査を実施する。また、その結果を分析し、生徒の実態を把握し、より効果的な指導に結びつける。</p> <p>(5) 「おとくにベーシック」「おとくにアカデミア」の時間、学校設定科目、高大連携授業の活用等により、主体的な深い学びを実現し、基礎学力の定着及び難関大学入試等に対応できる発展的学力の育成を図る。</p>	教務	B	B	<p>(1) 平成 31 年度入学生教育課程について、新学習指導要領の先行実施分を加味しながら、生徒の実態を考慮して編成した。また、1 年後半期からのコース変更希望者が多く、調整困難な面もあったが、適切に実施できた。</p> <p>(2) 「シラバス」は学年・学科別に冊子として編集し、全生徒に配布することができた。</p> <p>(3) 定期考査前の放課後学習講座は課題や補充内容の充実を図り、対象生徒を精選して実施した。学年による差が残るものの成績不振者数の減少傾向が明確である。</p> <p>(4) 生活実態調査の結果を分析し、学習・生活指導の改善の一助とした。</p> <p>(5) 年度途中での通信制高校への転学、退学及び休学した生徒数が例年に比べて多かった。課題を抱える生徒への日常的な一層手厚い支援が必要である。</p>
		<p>(1) 高大連携・高大接続を効果的に活用しつつ、希望進路の実現に向けた取り組みを充実させる。</p> <p>(2) 学年部との連携のもと土曜活用の充実をはかる。</p> <p>(3) 学年部との連携のもと進路希望調査及び個別面談に基づく的確な進路指導を推進する。</p> <p>(4) 模擬試験の結果分析を進め、学習集団の学力傾向を把握し生徒が有する学力を一層伸長させるための取り組みを推進する。</p>	進路指導	B	B	<p>(1) 第1学年においてはキャリア形成の観点から、「学びの窓」や「夢ナビ」などを実践した。また、3 学期には大学に目を向ける進路学習も学年の協力の下行った。</p> <p>(2) 第2 学年においては、「進路別説明会」「分野別説明会」志望理由書指導など進路目標明確化のための指導を行った。また、進路希望調査を行った。</p> <p>(3) 第3 学年においては進路希望に応じた各種説明会を実施した。</p>

3 進路指導	進路目標の明確化	<p>(1) 第1学年においては将来のキャリア形成を見すえ、主体的な進路行事を展開する。</p> <p>(2) 第2学年においては各種進路行事や志望理由書指導等を通じ、進路目標の明確化及びそのための具体的取り組みを促す指導を推進する。</p> <p>(3) 第3学年においては進路希望に応じたきめ細かい説明会を実施し、高い進路実現と最後まで諦めない指導を進める。</p>	進路指導	B	進路指導部に学年担当を置き、学年部と常に連携をとりつつ進路指導を展開した。特に3年生については4回の進路検討会を開催するとともに常に生徒の状況について情報交換を行い指導した。1, 2年生については進路行事の前倒しを行い早期の進路に対する意識向上に努めた。
	学力向上への取組	<p>(1) 教科との連携のもと高い進路実現に向けた進学補習及び学習合宿を展開する。</p> <p>(2) 学習室の有効活用と管理を徹底し、生徒の自学自習を支援する</p>	進路指導	B	<p>(1) 教科との連携のもと年間を通して進学補習及び2年学習合宿、小論文指導などを実施した。</p> <p>(2) 今年度より当番制で先生方の協力の下、学習室の活用による生徒の自学自習支援を行った。</p>
	学年部との連携強化	<p>(1) 進路指導担当者会議をはじめ、学年部と常に連絡をとりつつ、生徒の状況を的確に把握、生徒の希望進路実現に向けた進路指導を展開する。特に第3学年については年4回の進路検討会を実施し、高い希望進路の実現を図る。</p> <p>(2) 各種説明会に積極的に参加し、進路指導に係る情報を共有する取り組みを進める。</p> <p>(3) FINE SYSTEMの活用をはじめ、各種模擬試験の結果に基づく学力分析を通して的確な進路指導を推進する。</p>	進路指導	B	<p>(1) 外部の各種説明会に積極的に参加するとともに、進路部便りを発行するなどし情報共有を図った。</p> <p>(2) FINE SYSTEMやCOMPASSなどを活用した。</p>

4 生徒指導	生徒会活動の充実	<p>(1) 毎週の定例会議で話し合うことを習慣づけ、学校生活をよりよいものにしていくよう、全校生徒の代表としての自覚ある活動を促す。</p> <p>(2) 一つ一つの取組の意義目的を押さえながら、自ら考えて動く生徒会の育成に努める。</p> <p>(3) 見通しを持ち、自主的に各種行事の企画・運営ができるよう指導する。</p> <p>(4) 地域でのボランティア活動、「交流のひろば」の取組など、地域社会の一員としての活動を促す。</p>	生徒指導	B	<p>(1) 定例で会議を開き、会長が中心となって話し合うことができた。</p> <p>(2) 各行事等では新たな取り組みに挑戦するなど、自ら考える力が育ちつつある。</p> <p>(3) 文化祭などでは早くから準備に取り組むなど、見通しを持ちながら積極的に活動することができた。</p> <p>(4) 交流の広場では、文化系クラブとともに新たな活動に取り組むことができた</p>
	基本的生活習慣の確立	<p>(1) 授業規律を遵守させる。</p> <p>(2) 各分掌と協力し、登校時における遅刻者（数）の減少に努める。</p> <p>(3) 生活規律（特に頭髪、制服の着こなし、スマートフォン等のネットモラル）を遵守させる。スマートフォンの使い方については、再度課題を確認し、対策を講じる。</p> <p>(4) 挨拶の励行とその場に応じた礼儀を身につけさせる</p>	生徒指導	C	<p>(1) 授業が成り立たないような事象は見受けられないが、無気力な生徒の居眠りがあり、今後も授業規律を遵守させるとともに、自ら学ぶ姿勢を育む必要がある。</p> <p>(2) 登校時の遅刻者は前年度に比べて増加した。「33プロジェクト」などを定期的実施し、生徒の意識を高める必要がある。</p> <p>(3) 頭髪の加工を行った生徒が若干名いたため、改善するように指導した。スマートフォンについては、「NO スマホデー」を2回実施し、使い方について再度考える機会を設けた。SNS上に個人情報を載せるなどの事案があり、引き続き指導する必要がある。</p> <p>(4) 挨拶等の礼儀は定着した。</p>
	部活動の活性化	<p>(1) 部活動の入部率・定着率を向上させる。</p> <p>(2) 重点運動部を中心に全国・近畿レベルの競技会での入賞者数を増加させる。</p> <p>(3) キャプテン会議を定期的開催し、部活動の意義を浸透させ、学校生活の規律やマナーの向上を図る。</p>	生徒指導	B	<p>(1) 部活動の入部率を維持することができた。入部した生徒の部活への定着が課題である。</p> <p>(2) 全国高校総体に30名を超える生徒が出場しフェンシング部と陸上競技部の生徒が入賞した。また国体でフェンシング女子が優勝した。</p> <p>(3) キャプテン会議を1ヶ月に1回開催し、部活動の意義を浸透させ、学校生活の規律やマナーの向上を図った。</p>

	問題行動の未然防止	(1) 日々の生徒観察や教職員間の情報共有を充実させ、問題行動の未然防止に努める。 (2) 学校生活のみならず、あらゆる場面において柔軟かつ的確な判断力や態度を育成するなど、生徒自身の自己指導能力の向上を図る。	生徒指導	C	(1) 毎朝の登校指導から各生徒の基本的な生活習慣の乱れをチェックし、毎週の部会議で共有し、部長会議等で情報提供し、学校組織で指導することができた。 (2) 生徒会活動や部活動において、今後更なる生徒自身の自治的な力を育成していかなければならない
	安全指導	(1) 登下校時の安全指導を中心に自転車の乗車マナー向上に努める。 (2) 雨天時における自転車通学には雨合羽着用を徹底する。 (3) 自転車のイヤホン装着運転の厳禁を徹底する。	生徒指導	C	(1) 毎朝の登校指導を中心に、毎学期行った交通安全指導週間を通してマナーの向上に努めたが、登下校中の事故が数件発生した。 (2) 雨天時の雨合羽の着用は定着し (3) 校門付近ではイヤホン装着運転は概ね見受けられなかった。
	人権教育・国際理解	(1) あらゆる教育活動の場を人権活動・国際理解の場と位置づけ、一人一人を大切にした教育の推進を図る。 (2) 各学年の課題に応じた人権学習を行うとともに、3年間を見通した人権学習計画を確立する。2年生については研修旅行の事前学習と関連づけた内容で実施する。 (3) 家庭、地域社会、関係諸機関との連携を密にした指導を展開する。	総務企画	B	各学年の課題に応じた内容で実施することができた。3年間の流れも定着してきている。今年度は2年生の研修旅行に向けて2種類の内容を実施することができた。 教職員研修では同和問題について学びなおすことができた。 長岡京市等とも連携しつつ、人権啓発活動への参加ができた。
5 健康安全	健康に関する知識・意識の高揚	(1) 各種健康診断を計画に沿って実施する。 (2) 生徒の実態に応じた保健活動（講演会、保健委員会活動等）を実施し、生徒自らが自身の健康の保持増進を図ることができるようにする。 (3) 心理面や発達課題のある生徒の指導を関係教職員等（担任・保護者・SC・教科担当者・部活動顧問）及び関係機関と連携を図り効果的に行う。 (4) 発達に課題のある生徒の理解を深めるための研修会を実施する。 (5) 「食育」に関する講演会を「生命のがん教育」に変更、実施し、生徒のがんに対する理解を促した。	保健	B	B (1) 計画通りに各種健康診断を実施できた。生徒個々の状態に合わせて、健康指導も行った。 (2) 保健委員会は、広報活動・啓発活動・文化祭の取り組みを行った。 (3) 教育相談会議では、各学年・SC・関係諸機関と連絡を取りながら対応してきた。 (4) 教職員向けはストレスに関する研修会を実施した。 (5) 1年生に対して、「生命のがん教育」を実施した。

	学習環境の美化整備	<ul style="list-style-type: none"> (1) 日常清掃・定期大掃除・外庭大掃除の指導を徹底する。 (2) 美化委員及び教職員による日常・定期清掃点検を実施し、美化意識と文化水準の向上を図る。 (3) 美化委員会活動を活発にすることにより、自発的に清掃活動に取り組めるようにする。 (4) 環境検査を学校薬剤師の協力を得て計画的に実施する。 	保健		B	<ul style="list-style-type: none"> (1) 日常清掃・定期大掃除・外庭大掃除を計画通り実施した。 (2) 必要に応じて、美化委員やクラブ員の協力を得て、校内美化に取り組んだ。 (3) 美化委員会を活発にして、自発的に取り組めるよう努力した。 (4) 学校薬剤師と養護教諭が協力して、学校環境検査や、校舎内外の安全点検に取り組んだ。
6 図書館経営	図書館の円滑な運営と図書館教育、視聴覚教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> (1) 綿密な思考力と豊かな感性を育て、高いレベルでの「文武両道」を目指すため、学校全体として読書する生徒を育てる環境を整える。 (2) 教育活動を支える生徒の教養の育成を促す資料の充実を図り、授業、行事、特別活動において各教科・分掌との連携を深める。 (3) 団体鑑賞行事を実施する。 (4) 視聴覚(DVD)教材の需要調査と既存 DVD 教材のデータベース化を進め、視聴覚機器の充実を図る。 (5) コンピュータによる書籍管理、貸出業務を実施する。 	図書		B	<ul style="list-style-type: none"> (1) 今年度初の取り組みとして「LHR 読書の時間 (ロッドク) を1年生に実施し、好評を得た。来年度は1, 2年生に広げ、本を読む機会の確保に努めたい。また、今年度初の取り組みとして「文化遠足レクチャー」の取り組みも行った。来年度はもう少し早い時期から取り組みたい。高いレベルの文武両道を目指すに当たり、芳醇で上質な文化的時間を保障することが課題である。 (2) 生徒教職員の要望に応え、必要な書籍をそろえていった。文化祭ではシナリオ・DVD資料を提供した。研修旅行、図書館での調べ学習、授業のための図書資料については、他の図書館とも連携して提供し、充実を図った。 (3) 団体鑑賞「消えた海賊」は、地震直後にもかかわらず、会館や劇団の尽力により、無事実施することができ、おおむね好評であった。今後、災害時の対策が京都府立高等学校全体で必要になると思われる。会館への移動に今年初めて担任の手を借りたが、無理があった。 (4) 視聴覚機材(三脚)、SDカードを整備し、管理・貸出方法を工夫して、散逸を防いだ。 (5) 順調に実施中だが、コンピュータの更新や配線に課題が残る。 (6) 生徒が主体となる委員会活動を進めるようサポートしたが活動時間の制約等もあり、難しい面もあった。 (7) 洛西高校での図書館見学会・図書委員会交流会に参加し、より広い視野を持たた。 (8) 2020、2021年度の京都府高等学校視聴覚研究協議会(高視協)の幹事校になることが予想されるので、2019年度からそれに備えた体制を組んでおく必要がある。
	図書委員会の充実	<ul style="list-style-type: none"> (1) 図書委員会の指導と、委員会行事の充実を図る。 (2) 図書館見学会・図書委員会交流会(洛西高校)への参加。 	図書		B	

7 地域連携	学校情報の発信	<p>(1) ホームページのタイムリーな更新を行い、情報発信の中核とする。とりわけ部活動情報の更新を意識的に行う。</p> <p>(2) 家庭との連携をさらに緊密にするために、今年度より新しくなったメール配信システムを有効に活用し、その一助とする。</p> <p>(3) 行事や体育系活動のみならず、文化系諸活動、図書館の魅力、普通科の活動をきめ細かく発信する。</p> <p>(4) 地域と密着した活動(開放型地域スポーツクラブ等の活動)やボランティア活動なども積極的に発信していく。</p>	総務企画	B	<p>行事についての更新は適宜行ったが、部活動関係については滞っているところもある。キャプテン会議で記事を回収した上で担当者が更新するなど、顧問頼みにならない工夫が必要である。</p> <p>それ以外の本校の取り組みの発信についてもまだ改善の余地がある。</p> <p>メール配信は、新しいシステムになってスタートしたばかりである。今後様々な工夫をしていく余地がある。</p>	
	ボランティア活動の実施	<p>(1) ボランティア活動に関する広報を行い、多くの生徒の自発的な参加を促す。</p> <p>(2) 地域社会の一員として貢献できるよう、生徒会として地域のボランティア活動などに取り組む。</p>	生徒指導	B	<p>(1) 生徒会中心に、平和フォーラムへの協力、「交流のひろば」への参加ができた。</p> <p>(2) 今年も長岡京市緑のサポーターとして運動部員を中心として清掃活動などを実施した。</p>	
8 スポーツ健康科学科	スポーツ健康科学科充実に向けた取組の推進	<p>(1) 専門科目(「スポーツ概論」、「スポーツ総合演習」)により、スポーツ科学、健康科学に対する興味を深め、成果としての研究発表の質をさらに向上させる。</p> <p>(2) 高い希望進路の実現に向けた学力向上・定着を図る。</p> <p>(3) 競技力向上を図り、重点種目にとどまらず、多くの種目で全国大会参加者を増加させる。</p> <p>(4) 地域住民に対してスポーツの楽しさ、スポーツの実践による体力づくり、健康づくりの大切さを知ってもらい継続的な活動を行う。</p>	スポーツ健康科学	B	B	<p>(1) 本校教員の授業+高大・産学連携授業によってスポーツ健康科学への興味を深めることができた。また、それに伴い、研究発表の質も向上した。</p> <p>(2) 自学自習への取組が強化できた。</p> <p>(3) 多くの種目で全国大会に出場した。全国大会入賞者も輩出することができ、一定の成果を挙げた。</p> <p>(4) おとくにクラブを含め、地域に貢献するスポーツ活動を行うことができた</p>
9 校務事務	生徒の福利厚生	<p>(1) 修学支援の適切な運用を図る。</p> <p>(2) 諸費収納事務の円滑な運用を図る。</p> <p>(3) 諸証明等発行事務の円滑な運用を図る。</p>	事務	B	B	<p>(1) 及び(2)については、担任等の協力を得て適正に処理することができた。</p> <p>(3) についても、概ね適正に処理できた。</p>

	財産、施設・設備、物品 管理	(1) 校舎・施設等の適正な維持管理に努める。 (2) 学習環境の更なる充実を図る。 (3) 特色化に向け必要物品の充実を図る。	事務	B	(1)及び(2)については、概ね対応できた。 (3)については、予算の都合から若干課題が残った
	個人情報保護	(1) セキュリティを考慮しつつ、利用しやすいネットワーク環境を一層充実させる。 (2) 職員室、準備室における管理区域（生徒・部外者立ち入り禁止区域）の徹底を図る。	ネットワー ク担当	B	(1) 個人情報の保護を徹底しつつ、パソコン・ネットワークを維持管理できた。 (2)については徹底できた
10 危機管理	防犯・防火	(1) 危険をいち早く発見して、事件・事故の発生を未然に防ぐための指導を行う。 (2) 事件・事故が発生した時は適切かつ迅速に対応し、被害を最小限に抑える。 (3) 学校防火・防災計画の立案と適切な避難訓練を隔年度に実施する。	生徒指導	C	C (1) 常日頃から教職員の危機管理能力を更に高めていく必要がある。 (2) 教職員連絡網等で常日頃から迅速に対応できる組織力を高めていく必要がある。 (3) 避難訓練は次年度に実施予定。

A：達成できている。 B：ほぼ達成できている。 C：あまり達成できていない。 D：ほとんど達成できていない。

<p>次年度に向けた改善の方向性</p>	<p>学校の特色としては、「生徒の基本的な生活習慣の確立された学校」「部活動に熱心な学校」「施設・設備面が充実した学校」等の成果を踏まえた府民のイメージが確立されている。</p> <p>保護者、地域の方々、学校関係者等の方々からの生徒への評価も「真面目でおとなしい集団」とされることが多いが、本校がめざす「自らが考え判断し、行動していく」という自律の力が育っていないのが現状である。</p> <p>さまざまな教育活動を体系化する中で、より高いレベルでの学習と部活動の両立を図りながら、綿密な思考力と的確な判断力、豊かな感性と強い意志を身に付けさせて、希望進路の実現と心豊かにたくましく生きる人間の育成に努め、本校のスローガンである「乙訓で鍛える知力・体力・人間力 乙訓で創る君自身の物語（ストーリー）」を実現させたい。</p>
----------------------	---

<p>学校関係者評価委員会による評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全府的に公立高校への入学志願者の状況が大きく変化している。高校入学者選抜の状況から、特に地元中学校への連携や広報について、重点的に取り組む必要がある。地元中学校を含めて、連携や広報に危機感を持って取り組んでほしい。 ・中学生でも様々な理由による不登校が増えていると聞く。高校でも多岐にわたる生徒への対応が必要となっているのではないか。体育系部活動の活発な取組は継続しながら、文化系部活動の活性化、課題を持つ生徒への対応について、粘り強く取り組んでほしい。 ・部活動部員による地域小学生との交流・指導に感謝している。引き続き地域との連携に取り組んでほしい。 ・前年度に課題となっていたホームページやお知らせメールの活用については、効果的に運用することができた。更に有効な運用となるよう次年度もますますの活用をお願いしたい。
------------------------	--